

新年のご挨拶



町より



肝付町長 永野 和行

明けましておめでとうございます。

町民の皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、新年早々、能登半島地震が発生するという衝撃的な幕開けで一年が始まりました。日々被災状況が明らかになるにつれ、能登半島地域と同じような環境下にある内之浦地区・岸良地区の事が心配になりました。

肝付町はこれまでに、災害時に対応すべく、大浦地区には、救急搬送、孤立時物資搬送のためのヘリポートを設置、内之浦地区の中心街には津波避難タワーを設置、町立病院の機能充実をはかり、食料備蓄や非常用発電を準備するほか、避難訓練

等を実施するなど地域の皆さんとともに備えてまいりました。

しかしながら、現在、内之浦地域の高齢化率は57%。100人のうち57人が65歳以上の状況下で、自助・共助・公助がうまく機能するのか、公助も道路が寸断されたりして迅速な対応ができるのか、懸念は尽きません。今後も、関係各機関のみならずと協議しながら、町民の皆さんの命を守る努力を続けてまいります。

昨年夏、日本銀行の季刊誌に肝付町が掲載されました。

「行政の先駆的な試みが、多様な可能性を生む鹿児島県肝付町」と題して町の取り組みだけでなく、町内で日々挑戦を続ける事業者の方々や、移住者の方々について、7ページに渡っ

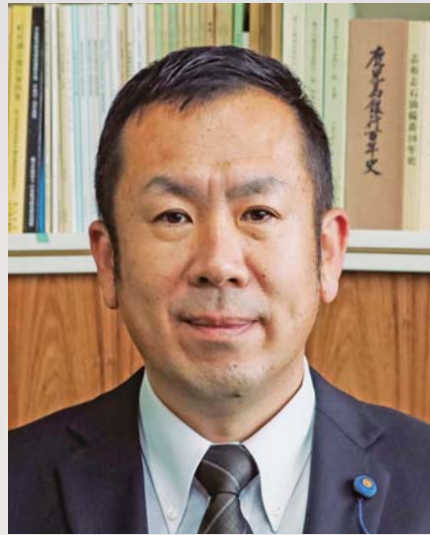
て紹介されました。こんなにも町民の皆さんが頑張ってくださいているのだと改めて思うことでした。

「まちづくりは人づくり」。昨年2つの大学と宇宙人材の育成に係わる包括連携協定を結びました。まちで人が育つ、育った人がまちを作る、そんな相乗効果が生まれる町にしていきたいと考えています。

これからも、町民が主役の「日本一の肝付町」実現に向け、行政・議会ともに、全力で取り組んでまいります。

最後になりましたが、新しい年が皆様にとりまして、健康で幸せな年となります事を祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

議会より



肝付町議会

議長

有留 智哉

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。また、平素より本町の議会運営並びに議会活動に対しまして、ご理解とご協力を賜り、議会を代表して厚くお礼を申し上げます。

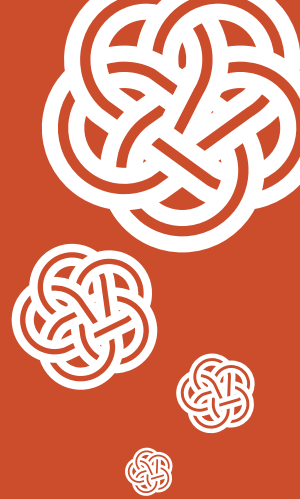
さて、人口減少や少子高齢化が到来する中、将来にわたり活力ある地域社会を維持し、町民生活の安心と安全を確保する役割を果たしていくためには、自己決定と自己責任による積極的な行政運営が求められます。二元代表制の一翼を担う町議会の役割も一段と重要性を増してきております。

肝付町議会におきましては、昨年、町民の皆様からのご協力をいただき、「議員定数等に関するアンケート」を実施しました。そして、そのアンケートに何度も目を通し、議論を重ねてまいりました。また、定例会終了後の「傍聴者との意見交換会」や議会報告会を実施して、様々な声をいただきました。その結果、議員定数を14名から12名に削減、また、議会基本条例や申し合わせ事項等を改め、議会モニターや議会政策サポーター制度にも取り組んでいくようになりました。

まだまだ、足りないところもあると思いますが、これに満足することなく、今後とも議会改革を進めてまいります。そして、議員一人ひとりが資質の向上に努め、「町議会は変わった。」と

思っていただけのように、「議会が変われば、町も変わる。」「より良い議会へ、より良い肝付町へ。」となるために今後も邁進してまいります。

結びに、本年が肝付町にとりまして、さらなる発展の年になりますよう、町民の皆様には、健康で笑顔があふれる輝かしい年になりますよう、議員一同、心からご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



教育委員会より



肝付町教育委員会 教育長

木村 政文

新年明けましておめでとうございませう。

昨年は、学校教育、生涯学習にご支援いただき誠にありがとうございました。お陰様で、本町の教育も次のステージに向け着実に前進しております。

ところで、教育用語に「メタ認知」という言葉があります。この概念は、子どもたちの学習において大切であり、自分を客観視することにつながります。昨年、感じたことですが、本町には、自然、伝統、歴史、記憶など、誇れるものが数多くありますが、内にあるとその良さになかなか気づきません。

例えば、本町は太平洋に面した長い海岸、甫与志岳のある国見連山、水田が広がる肝属平野などの自然。また九百年の伝統

謹賀新年

ある流鏝馬、八月踊り、鎌踊り、ドヤドヤサー、ナゴシドンなどの伝統。さらに日本最南端の前方

後円墳群である塚崎古墳群、肝付氏の戦城・居城であった高山城跡、鎌倉の建長寺ともゆかりのある道隆寺跡などの歴史。日本初の人工衛星おおすみを打ち上げた内之浦宇宙空間観測所の記憶。このような自然、伝統、歴史、そして最先端の科学などがあふれる素敵な町で、子どもたちは学び、私たちは生活をしていることに誇りを持ち、承継することが大切であると強く感じています。

さて、令和七年は本町の教育（学校教育、生涯学習）においても、デジタル化、AIの活用などが一層進むかと思えます。ただ、AIやロボットにとって代わることのできない、人間にしかできな

いことは「他者に共感したり、意図を汲み取ること」だと言われています。

そのためには、身の回りや地域に思いを寄せ、そこにある課題を見出し、その解決に向け協働していく力を養うことが大切になります。そこで、承継創造（先人に学び引き継ぎ、新しい価値を創り出す）の理念のもと、立場や能力、年齢などを限定しない、最先端のデジタルと身の回りの課題解決を図るアナログを一体とした、時間・空間・人間に開かれたシームレスな環境を創造し、教える・学び合い・行動する施策を愚直に進めていく所存です。そして、持続的な町づくり、地域づくりへつなげ、一人ひとりの多様な幸せと社会全体の幸せに貢献できる教育を目指してまいりますので、よろしくお願いいたします。

町立病院より



肝付町立病院 院長

菰方 輝夫

新年あけましておめでとうございませう。

皆さまには、健やかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、常勤医3名から4名体制となり、職員一丸となって町民の方々への安心安全な医療提供に努めてまいりました。お陰さまで、入院患者さまも着実に増加し、励ましのお言葉など応援メッセージも頂きました。改めて心から御礼申し上げます。

本年は、引き続き常勤医4名で内科・外科・放射線科・総合地域医療を、非常勤医6名で整形外科・眼科・循環器内科をしっかり提供し、必要に応じて適切な医療機関を紹介いたします。皆さまの「かかりつけ医」となり、受診から退院、在宅に至るまで、医療、介護、福祉、生活



支援の各機関とも緊密な連携を取り、患者さま、ご家族が安心して住み慣れた地域で過ごしていただけるよう、総合的な支援をしてまいります。

部門別では、リハビリ体制の拡充のためセラピスト増員、地域連携の機能強化、肝付町、特に高山地区の送迎車拡充、学術活動の更なる活性化、行政との緊密なタイアップによる皆様

へのシームレスな医療サービスの還元などに努めてまいります。肝付町立病院は、信頼される医療をご提供し、「肝付町になくてはならない病院」として、皆さまから想っていただけますよう、職員一同、一丸となって努力を続けてまいります。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

